

平成23年10月31日
財務省

報道発表

法人企業統計調査結果（平成22年度）

連絡問合せ先
財務総合政策研究所
調査統計部調査統計課
TEL 03-3581-4111
(内線) 5499
5325
直通 03-3581-4187
財務省ホームページアドレス
<http://www.mof.go.jp/>

「年次別法人企業統計調査」は、我が国の営利法人等の決算計数を取りまとめたものである。当調査結果から平成22年度の企業動向（金融業、保険業を除く）をみると、売上高については、製造業では増収、非製造業では減収となった。経常利益については、製造業、非製造業ともに増益となった。また、設備投資については、製造業では増加となり、非製造業では減少となった。なお、リース業を除く全産業では減少となった。

- (注) 1 営利法人等とは、合名会社、合資会社、合同会社及び株式会社並びに信用金庫、信用金庫連合会、信用協同組合、信用協同組合連合会、労働金庫、労働金庫連合会、農林中央金庫、信用農業協同組合連合会、信用漁業協同組合連合会、信用水産加工業協同組合連合会、生命保険相互会社及び損害保険相互会社をいう。
- 2 設備投資とは、調査対象年度中の有形固定資産（土地を除く）増減額及びソフトウェア増減額に減価償却費及び特別減価償却費を加算したものである。
- 3 平成20年度調査より金融業、保険業を調査対象に加えた。

[参考]

この調査は、我が国の営利法人等を対象とした無作為抽出による標本調査（標本法人の調査結果に基づいて母集団法人の推計値を算出したもの）である。

なお、下表の（ ）書きは、金融業、保険業を除いた数値である。

資本金区分	1,000万円未満	1,000万円以上1億円未満	1億円以上10億円未満	10億円以上	合計
母集団法人数(社)	1,694,075 (1,658,225)	1,084,372 (1,070,533)	28,288 (27,041)	6,218 (5,345)	2,812,953 (2,761,144)
標本法人数(社)	5,315 (3,468)	13,271 (10,729)	11,198 (9,951)	6,218 (5,345)	36,002 (29,493)
回答法人数(社)	3,463 (2,275)	9,687 (7,977)	9,016 (7,956)	5,651 (4,818)	27,817 (23,026)
回答率(%)	65.2 (65.6)	73.0 (74.3)	80.5 (80.0)	90.9 (90.1)	77.3 (78.1)

第1表 売上高の推移

(単位：億円、%)

1. 収益の状況

(1) 売上高（金融業、保険業を除く）（第1表、第1図）

売上高は1,385兆7,426億円で、前年度（1,368兆196億円）を17兆7,230億円上回り、対前年度増加率（以下「増加率」という）は1.3%（前年度△9.3%）となった。

業種別の増加率をみると、製造業では、はん用機械、金属製品、石油・石炭などで減収となったものの、輸送用機械、食料品、情報通信機械などで増収となったことから、製造業全体では5.8%（同△14.3%）となった。

一方、非製造業では、卸売業、小売業、電気業、運輸業、郵便業などで増収となったものの、サービス業、建設業、不動産業などで減収となったことから、非製造業全体では△0.4%（同△7.2%）となった。

資本金階層別の増加率をみると、10億円以上の階層は4.9%（同△12.1%）、1億円～10億円の階層は3.6%（同△6.2%）、1,000万円～1億円の階層は△2.3%（同△8.3%）、1,000万円未満の階層は△3.3%（同△6.3%）となった。

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	売上高	増加率	売上高	増加率	売上高	増加率	売上高	増加率	売上高	増加率
全産業	15,664,329	3.9	15,801,713	0.9	15,082,072	△ 4.6	13,680,196	△ 9.3	13,857,426	1.3
製造業	4,503,358	3.5	4,717,091	4.7	4,450,526	△ 5.7	3,812,155	△ 14.3	4,033,137	5.8
食料品	470,089	7.0	447,780	△ 4.7	513,002	14.6	439,447	△ 14.3	474,636	8.0
化学	401,954	△ 2.8	422,247	5.0	405,947	△ 3.9	367,671	△ 9.4	381,950	3.9
石油・石炭	193,328	△ 3.7	214,137	10.8	207,639	△ 3.0	165,174	△ 20.5	162,306	△ 1.7
鉄鋼業	198,640	7.9	219,097	10.3	225,248	2.8	157,220	△ 30.2	182,092	15.8
金属製品	192,394	△ 4.1	233,499	21.4	221,707	△ 5.0	190,127	△ 14.2	183,476	△ 3.5
はん用機械	-	-	-	-	-	-	58,082	-	50,765	△ 12.6
生産用機械	-	-	-	-	-	-	188,591	-	206,296	9.4
業務用機械	-	-	-	-	-	-	134,473	-	145,644	8.3
電気機械	477,758	6.7	493,709	3.3	408,002	△ 17.4	334,925	△ 17.9	347,767	3.8
情報通信機械	357,949	7.4	357,685	△ 0.1	343,995	△ 3.8	318,941	△ 7.3	345,942	8.5
輸送用機械	697,662	13.5	741,550	6.3	637,743	△ 14.0	576,543	△ 9.6	629,095	9.1
非製造業	11,160,970	4.0	11,084,622	△ 0.7	10,631,546	△ 4.1	9,868,041	△ 7.2	9,824,290	△ 0.4
建設業	1,349,908	4.8	1,350,155	0.0	1,262,776	△ 6.5	1,207,005	△ 4.4	1,112,996	△ 7.8
卸売業、小売業	5,845,161	8.8	5,972,862	2.2	5,622,885	△ 5.9	4,995,201	△ 11.2	5,148,168	3.1
不動産業	338,586	△ 1.9	370,946	9.6	386,671	4.2	409,764	6.0	366,315	△ 10.6
物品賃貸業	<156,800>	<1.2>	<145,199>	<△7.4>	<132,347>	<△8.9>	137,984	4.3	141,503	2.6
情報通信業	589,865	5.5	558,367	△ 5.3	574,943	3.0	580,388	0.9	584,547	0.7
運輸業、郵便業	676,951	17.4	673,609	△ 0.5	621,825	△ 7.7	567,258	△ 8.8	572,935	1.0
電気業	167,822	1.4	175,028	4.3	188,485	7.7	165,215	△ 12.3	178,830	8.2
サービス業	1,846,746	△ 10.4	1,646,827	△ 10.8	1,607,365	△ 2.4	1,702,359	5.9	1,606,932	△ 5.6
資本金別										
10億円以上	5,980,023	5.8	6,220,751	4.0	5,881,368	△ 5.5	5,170,429	△ 12.1	5,424,924	4.9
1億円～10億円	2,540,417	10.0	2,407,753	△ 5.2	2,350,193	△ 2.4	2,204,772	△ 6.2	2,283,941	3.6
1,000万円～1億円	5,870,092	△ 2.3	6,063,324	3.3	5,668,427	△ 6.5	5,197,815	△ 8.3	5,077,687	△ 2.3
1,000万円未満	1,273,796	14.6	1,109,886	△ 12.9	1,182,084	6.5	1,107,180	△ 6.3	1,070,875	△ 3.3

(注) 1. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。
2. 平成21年度年次別調査から、日本郵政、郵便事業、郵便局を含んだ計数は14ページの第15表をご覧ください。
3. 平成21年度調査から業種分類を改定している。
①旧分類の「一般機械」と「精密機械」の一部を「はん用機械」、「生産用機械」、「業務用機械」に再編した。
②サービス業については、平成20年度調査以前は「物品賃貸業」が含まれているが、「宿泊、飲食サービス業」は含まれていない。平成21年度調査以降は、「物品賃貸業」は含まれていないが、「宿泊、飲食サービス業」が含まれている。上表では、平成20年度調査以前の「物品賃貸業」の計数は、サービス業に含まれていることから〈 〉書きで掲載している。
※財務省財務総合政策研究所ホームページの「時系列データ検索メニュー」(<http://www.fabnet2.mof.go.jp/fsc/index.htm>)では、新分類「生産用機械」の平成20年度調査以前の計数は、旧分類「一般機械」の計数を接続させております。同様に、新分類「業務用機械」の平成20年度調査以前の計数は、旧分類「精密機械」の計数を接続させております。

(2) 経常利益（金融業、保険業を除く）（第2表、第2図）

経常利益は43兆7,275億円で、前年度（32兆1,188億円）を11兆6,087億
円上回り、増加率は36.1%（前年度△9.4%）となった。

業種別の増加率をみると、製造業では、食料品などで減益となったもの
の、情報通信機械、輸送用機械、電気機械などで増益となったことから、
製造業全体では73.5%（同△10.5%）となった。

一方、非製造業では、卸売業、小売業、サービス業、運輸業、郵便業など
多くの業種で増益となったことから、非製造業全体では21.3%（同△9.0
%）となった。

資本金階層別の増加率をみると、10億円以上の階層は44.9%（同△7.9
%）、1億円～10億円の階層は24.9%（同5.7%）、1,000万円～1億円の階
層は12.5%（同△9.3%）、1,000万円未満の階層は黒字転化となった。

(参考) 営業利益の推移

(単位：億円、%)

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率		
全産業	492,855	3.3	494,523	0.3	293,546	△ 40.6	275,350	△ 6.2	390,815	41.9
製造業	210,234	7.9	213,642	1.6	67,155	△ 68.6	58,795	△ 12.4	127,639	117.1
非製造業	282,620	0.2	280,880	△ 0.6	226,391	△ 19.4	216,555	△ 4.3	263,176	21.5

(注) 1. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。

2. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

第2表 経常利益の推移

(単位：億円、%)

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率	増加率		
全産業	543,786	5.2	534,893	△ 1.6	354,623	△ 33.7	321,188	△ 9.4	437,275	36.1
製造業	238,066	9.3	238,903	0.4	101,844	△ 57.4	91,102	△ 10.5	158,083	73.5
食料品	13,082	△ 2.7	12,367	△ 5.5	13,510	9.2	15,262	13.0	14,576	△ 4.5
化学	37,590	5.5	36,292	△ 3.5	22,304	△ 38.5	25,849	15.9	30,348	17.4
石油・石炭	4,377	△ 13.6	2,970	△ 32.2	△ 1,495	△ 150.3	271	*	3,335	1,130.1
鉄鋼業	19,877	2.2	18,736	△ 5.7	12,285	△ 34.4	△ 958	△ 107.8	5,303	*
金属製品	7,218	△ 2.8	9,274	28.5	6,611	△ 28.7	2,790	△ 57.8	5,552	99.0
はん用機械	-	-	-	-	-	-	1,171	-	2,032	73.6
生産用機械	-	-	-	-	-	-	△ 111	-	8,030	*
業務用機械	-	-	-	-	-	-	6,420	-	9,026	40.6
電気機械	20,096	15.7	21,249	5.7	3,162	△ 85.1	5,638	78.3	14,911	164.5
情報通信機械	13,313	43.1	11,807	△ 11.3	△ 2,023	△ 117.1	△ 1,461	*	9,183	*
輸送用機械	38,529	7.8	43,344	12.5	4,999	△ 88.5	12,124	142.5	21,657	78.6
非製造業	305,720	2.2	295,990	△ 3.2	252,779	△ 14.6	230,086	△ 9.0	279,192	21.3
建設業	24,940	16.9	23,085	△ 7.4	16,435	△ 28.8	15,684	△ 4.6	18,122	15.5
卸売業、小売業	91,053	△ 2.9	89,336	△ 1.9	70,872	△ 20.7	61,071	△ 13.8	77,684	27.2
不動産業	34,648	48.5	34,265	△ 1.1	29,236	△ 14.7	30,926	5.8	33,244	7.5
物品賃貸業	<4,641>	<△58.3>	<5,381>	<15.9>	<3,964>	<△26.3>	4,675	17.9	7,875	68.5
情報通信業	38,275	1.7	37,558	△ 1.9	35,534	△ 5.4	39,870	12.2	43,897	10.1
運輸業、郵便業	29,829	21.7	30,713	3.0	19,564	△ 36.3	12,386	△ 36.7	19,714	59.2
電気業	11,427	△ 12.0	4,692	△ 58.9	△ 18	△ 100.4	7,316	*	9,620	31.5
サービス業	58,993	△ 16.2	60,206	2.1	66,606	10.6	49,379	△ 25.9	57,464	16.4
資本金別										
10億円以上	328,342	11.6	322,790	△ 1.7	194,302	△ 39.8	178,979	△ 7.9	259,345	44.9
1億円～10億円	81,293	18.7	73,845	△ 9.2	54,270	△ 26.5	57,367	5.7	71,624	24.9
1,000万円～1億円	127,142	△ 12.1	126,488	△ 0.5	100,753	△ 20.3	91,335	△ 9.3	102,785	12.5
1,000万円未満	7,009	△ 25.9	11,770	67.9	5,298	△ 55.0	△ 6,493	△ 222.5	3,522	*

(注) 1. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。

2. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。平成20年度の日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数は14ページの第15表をご覧ください。

3. 平成21年度調査から業種分類を改定している（詳細は、2ページの(注)3.をご覧ください）。

4. *印は前年度の経常利益が負数のため算出できないものである。

(3) 売上高利益率（金融業、保険業を除く）（第3表）

第3表 売上高利益率の推移

（単位：％）

売上高営業利益率は2.8％（前年度2.0％）となり、売上高経常利益率は3.2％（前年度2.3％）となった。

売上高営業利益率を業種別でみると、製造業では3.2％（前年度1.5％）となり、非製造業では2.7％（前年度2.2％）となった。

売上高経常利益率を業種別でみると、製造業では3.9％（前年度2.4％）となり、非製造業では2.8％（前年度2.3％）となった。

区分	年度	売上高営業利益率					売上高経常利益率				
		2006 (平成18)	2007 (平成19)	2008 (平成20)	2009 (平成21)	2010 (平成22)	2006 (平成18)	2007 (平成19)	2008 (平成20)	2009 (平成21)	2010 (平成22)
全 産 業		3.1	3.1	1.9	2.0	2.8	3.5	3.4	2.4	2.3	3.2
製 造 業		4.7	4.5	1.5	1.5	3.2	5.3	5.1	2.3	2.4	3.9
食 料 品		2.4	2.7	1.9	3.2	2.8	2.8	2.8	2.6	3.5	3.1
化 学		8.5	8.0	5.0	6.3	7.5	9.4	8.6	5.5	7.0	7.9
石 油 ・ 石 炭		1.9	1.2	△ 1.0	△ 0.0	1.9	2.3	1.4	△ 0.7	0.2	2.1
鉄 鋼 業		9.9	8.6	5.7	△ 0.7	2.8	10.0	8.6	5.5	△ 0.6	2.9
金 属 製 品		3.3	3.7	2.6	0.3	2.3	3.8	4.0	3.0	1.5	3.0
は ん 用 機 械		-	-	-	1.2	3.5	-	-	-	2.0	4.0
生 産 用 機 械		-	-	-	△ 1.3	3.2	-	-	-	△ 0.1	3.9
業 務 用 機 械		-	-	-	2.5	5.0	-	-	-	4.8	6.2
電 気 機 械		3.9	3.4	△ 0.5	0.4	3.0	4.2	4.3	0.8	1.7	4.3
情 報 通 信 機 械		3.2	3.0	△ 2.1	△ 0.5	2.0	3.7	3.3	△ 0.6	△ 0.5	2.7
輸 送 用 機 械		4.5	4.5	△ 1.2	△ 0.1	1.6	5.5	5.8	0.8	2.1	3.4
非 製 造 業		2.5	2.5	2.1	2.2	2.7	2.7	2.7	2.4	2.3	2.8
建 設 業		1.7	1.6	1.0	1.1	1.4	1.8	1.7	1.3	1.3	1.6
卸 売 業、小 売 業		1.2	1.2	0.9	0.9	1.1	1.6	1.5	1.3	1.2	1.5
不 動 産 業		11.0	11.0	8.8	9.3	12.1	10.2	9.2	7.6	7.5	9.1
物 品 貸 貸 業		<2.9>	<3.3>	<2.7>	3.4	5.1	<3.0>	<3.7>	<3.0>	3.4	5.6
情 報 通 信 業		5.9	6.2	6.0	6.7	7.2	6.5	6.7	6.2	6.9	7.5
運 輸 業、郵 便 業		4.9	4.9	3.4	2.5	3.7	4.4	4.6	3.1	2.2	3.4
電 気 業		9.3	4.8	2.0	6.3	7.2	6.8	2.7	△ 0.0	4.4	5.4
サ ー ビ ス 業		2.9	3.4	3.4	2.7	3.4	3.2	3.7	4.1	2.9	3.6
資 本 金 別											
10 億 円 以 上		5.0	4.8	2.7	2.9	4.2	5.5	5.2	3.3	3.5	4.8
1 億 円 ～ 10 億 円		3.0	3.0	2.3	2.5	3.0	3.2	3.1	2.3	2.6	3.1
1,000 万 円 ～ 1 億 円		1.9	2.0	1.5	1.6	1.8	2.2	2.1	1.8	1.8	2.0
1,000 万 円 未 満		0.2	0.6	△ 0.4	△ 1.2	0.0	0.6	1.1	0.4	△ 0.6	0.3

(注) 1. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。
 2. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。
 3. 平成21年度調査から業種分類を改定している（詳細は、2ページの（注）3.をご覧ください）。

(4) 剰余金の配当（金融業、保険業を除く）（第4表）

当期純利益は18兆6,864億円で、前年度（9兆2,239億円）を9兆4,625億円上回った。

第4表 剰余金の配当の推移

(単位：億円、%)

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
当期純利益	281,650	100.0	253,728	100.0	73,909	100.0	92,239	100.0	186,864	100.0
役員賞与	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-
配当金	162,174	57.6	140,390	55.3	122,098	165.2	122,851	133.2	103,574	55.4
内部留保	119,475	42.4	113,338	44.7	△ 48,189	△ 65.2	△ 30,611	△ 33.2	83,290	44.6

- (注) 1. 当期純利益＝経常利益＋特別利益－特別損失－法人税、住民税及び事業税－法人税等調整額
 2. 役員賞与は、平成18年度調査以前では利益処分項目であったが、平成19年度調査以降は、「役員賞与に関する会計基準」に基づき費用項目としたため、「-」と表示している。
 3. 平成18年度調査以前：内部留保＝当期純利益－役員賞与－配当金
 平成19年度調査以後：内部留保＝当期純利益－配当金
 4. 上記計数には金融業、保険業は含まれていない。
 5. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

2. 付加価値（金融業、保険業を除く）（第5表、第3図）

付加価値は271兆9,175億円で、前年度（263兆3,478億円）を8兆5,697億円上回った。

また、付加価値率は19.6%（前年度19.3%）となり、労働生産性は671万円（前年度641万円）となった。

第5表 付加価値の構成

(単位：億円、%)

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
付加価値	2,907,755	100.0	2,854,573	100.0	2,643,278	100.0	2,633,478	100.0	2,719,175	100.0
人件費	2,013,560	69.3	1,981,473	69.4	1,975,017	74.7	1,967,085	74.7	1,948,388	71.6
支払利息等	96,475	3.3	94,969	3.3	103,915	3.9	105,058	4.0	88,831	3.3
動産・不動産賃借料	275,342	9.5	268,020	9.4	272,848	10.3	295,146	11.2	287,126	10.6
租税公課	125,998	4.3	110,557	3.9	101,867	3.9	95,897	3.6	92,846	3.4
営業純益	396,379	13.6	399,554	14.0	189,631	7.2	170,292	6.5	301,984	11.1
付加価値率	18.6		18.1		17.5		19.3		19.6	
労働生産性(万円)	694		698		639		641		671	

- (注) 1. 付加価値＝人件費＋支払利息等＋動産・不動産賃借料＋租税公課＋営業純益
 平成18年度調査以前：人件費＝役員給与＋従業員給与（従業員賞与を含む）＋福利厚生費
 平成19年度調査以降：人件費＝役員給与＋役員賞与＋従業員給与＋従業員賞与＋福利厚生費
 役員賞与は、平成18年度調査以前では利益処分項目として調査を行っていたが、平成19年度調査以降は費用項目として調査を行っている。また、従業員賞与は、平成18年度以前では従業員給与に含めて調査を行っていたが、平成19年度調査以降は従業員給与に含めず単独項目として調査を行っている。
 2. 営業純益＝営業利益－支払利息等
 3. 付加価値率＝(付加価値/売上高) × 100
 4. 労働生産性＝付加価値/従業員数
 5. 上記計数には金融業、保険業は含まれていない。
 6. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

3. 投資の動向

第6表 設備投資の推移

(単位：億円、%)

(1) 設備投資（金融業、保険業を除く）（第6表）

設備投資額（第6表注1参照）は33兆802億円であり、前年度（33兆1,366億円）を564億円下回り、増加率は△0.2%（前年度20.5%）となった。

業種別の増加率をみると、製造業では、鉄鋼業、石油・石炭、金属製品などで減少したものの、情報通信機械、電気機械、輸送用機械などで増加したことから、製造業全体では4.7%（同△32.8%）となった。一方、非製造業では、物品賃貸業、電気業、卸売業、小売業などで増加したものの、サービス業、不動産業、建設業などで減少したことから、非製造業全体では△2.5%（同94.6%）となった。

資本金階層別の増加率をみると、10億円以上の階層は9.9%（同26.6%）、1億円～10億円の階層は1.3%（同19.2%）、1,000万円～1億円の階層は△14.5%（同27.9%）、1,000万円未満の階層は△21.8%（同△29.3%）となった。

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	金額	増加率	金額	増加率	金額	増加率	金額	増加率	金額	増加率
全産業	441,365 (437,620)	14.3 (13.5)	445,810 (443,062)	1.0 (1.2)	275,024 (279,096)	△38.3 (△37.0)	331,366 (331,259)	20.5 (18.7)	330,802 (332,633)	△0.2 (0.4)
製造業	157,684 (157,485)	9.6 (9.8)	176,378 (174,901)	11.9 (11.1)	160,049 (159,784)	△9.3 (△8.6)	107,603 (108,927)	△32.8 (△31.8)	112,667 (112,719)	4.7 (3.5)
食料品	14,428	15.3	10,058	△30.3	11,029	9.7	9,292	△15.7	9,463	1.8
化学	13,563	2.8	19,223	41.7	19,581	1.9	13,147	△32.9	13,029	△0.9
石油・石炭	2,806	67.3	2,784	△0.8	3,729	34.0	3,685	△1.2	1,241	△66.3
鉄鋼業	9,378	47.8	11,291	20.4	11,276	△0.1	10,562	△6.3	8,087	△23.4
金属製品	6,546	11.5	6,767	3.4	7,830	15.7	7,302	△6.7	5,431	△25.6
はん用機械	-	-	-	-	-	-	1,864	-	751	△59.7
生産用機械	-	-	-	-	-	-	4,336	-	4,575	5.5
業務用機械	-	-	-	-	-	-	3,691	-	4,106	11.2
電気機械	15,868	22.0	16,716	5.3	17,241	3.1	8,729	△49.4	9,706	11.2
情報通信機械	17,784	24.4	15,173	△14.7	11,735	△22.7	6,699	△42.9	14,480	116.2
輸送用機械	25,630	△2.2	28,395	10.8	27,005	△4.9	13,352	△50.6	14,012	4.9
非製造業	283,681 (280,135)	17.1 (15.7)	269,432 (268,162)	△5.0 (△4.3)	114,975 (119,312)	△57.3 (△55.5)	223,763 (222,332)	94.6 (86.3)	218,134 (219,913)	△2.5 (△1.1)
建設業	12,848	△13.7	9,379	△27.0	15,086	60.9	13,365	△11.4	10,275	△23.1
卸売業、小売業	31,642	△7.3	37,567	18.7	46,524	23.8	39,790	△14.5	42,945	7.9
不動産業	18,381	34.6	21,821	18.7	20,118	△7.8	23,426	16.4	19,258	△17.8
物品賃貸業	<68,256>	<13.3>	<70,901>	<3.9>	<△109,425>	<△254.3>	8,601	*	16,418	90.9
情報通信業	46,844	21.5	36,188	△22.7	41,997	16.0	41,743	△0.6	39,873	△4.5
運輸業、郵便業	40,205	45.4	31,220	△22.3	31,723	1.6	29,119	△8.2	26,646	△8.5
電気業	12,897	5.7	18,461	43.1	19,569	6.0	18,881	△3.5	22,183	17.5
サービス業	109,837	23.0	105,145	△4.3	△81,246	△177.3	41,783	*	33,284	△20.3
資本金別										
10億円以上	258,846	12.9	270,508	4.5	136,892	△49.4	173,334	26.6	190,428	9.9
1億円～10億円	68,745	55.0	56,376	△18.0	35,183	△37.6	41,951	19.2	42,490	1.3
1,000万円～1億円	89,028	△9.9	96,522	8.4	75,639	△21.6	96,760	27.9	82,774	△14.5
1,000万円未満	24,747	81.9	22,404	△9.5	27,310	21.9	19,321	△29.3	15,110	△21.8

(注) 1. 設備投資＝調査対象年度中の有形固定資産（土地を除く）増減額＋ソフトウェア増減額＋減価償却費＋特別減価償却費
 2. () は、ソフトウェア増減額を除いたものである。
 3. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。
 4. 平成21年度年次別調査から、日本郵政機構、郵便事業機構、郵便局構を含んだ計数となっている。平成20年度の日本郵政機構、郵便事業機構、郵便局構を含んだ計数は14ページの第15表をご覧ください。
 5. 平成21年度調査から業種分類を改定している（詳細は、2ページの（注）3.をご覧ください）。
 6. *印は前年度の設備投資が負数のため算出できないものである。

(参考表1) 設備投資の推移

(単位：億円、%)

(参考1)

「リース取引に関する会計基準」の適用(注)以前は、ファイナンス・リースにおけるリース物件については、貸し手側では固定資産として計上され、借り手側ではオフバランス処理されることが多かったが、同基準の適用により、貸し手側では流動資産に計上され、借り手側では固定資産に計上されることとなった。

年次別法人企業統計調査では、調査対象年度中の有形固定資産(土地を除く)増減額及びソフトウェア増減額に減価償却費及び特別減価償却費を加算したものを設備投資として扱っているため、今回の設備投資の計数には、上記会計基準の変更も影響していると考えられる。よって、全産業から貸し手側であるリース業を除いた計数を参考表1として示す。

(注) 「リース取引に関する会計基準」の適用時期は、平成20年4月1日以後開始する事業年度より適用。ただし、平成19年4月1日以後開始する事業年度から適用することができる。

区分	2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	増加率		増加率		増加率		増加率		増加率	
全産業業 (リース業を除く)	379,129	14.9	383,107	1.0	379,571	△ 0.9	326,693	△ 13.9	319,852	△ 2.1
非製造業 (リース業を除く)	221,444	19.1	206,728	△ 6.6	219,522	6.2	219,090	△ 0.2	207,185	△ 5.4
リース業	62,236	10.7	62,703	0.8	△104,603	△ 266.8	4,673	*	10,949	134.3
資本金別 (リース業を除く)										
10億円以上	208,386	15.5	222,626	6.8	213,996	△ 3.9	169,080	△ 21.0	183,791	8.7
1億円～10億円	61,374	66.8	47,316	△ 22.9	47,529	0.5	42,058	△ 11.5	40,622	△ 3.4
1,000万円～1億円	84,630	△ 4.8	90,800	7.3	90,661	△ 0.2	95,744	5.6	78,779	△ 17.7
1,000万円未満	24,739	4.3	22,365	△ 9.6	27,384	22.4	19,812	△ 27.7	16,661	△ 15.9

(注) 1. 設備投資＝調査対象年度中の有形固定資産(土地を除く)増減額＋ソフトウェア増減額＋減価償却費＋特別減価償却費
 2. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。
 3. 平成21年度年次別調査から、日本郵政(株)、郵便事業(株)、郵便局(株)を含んだ計数となっている。
 4. *印は前年度の設備投資が負数のため算出できないものである。

第7表 在庫投資と在庫率の推移

(2) 在庫投資（金融業、保険業を除く）（第7表）

在庫投資額は6,184億円であり、前年度（△11兆1,871億円）に比べ11兆8,055億円増加した。

業種別にみると、製造業では、前年度と比べ、鉄鋼業、電気機械など多くの業種で増加したことから、在庫投資額は1兆5,608億円となった。非製造業では、前年度と比べ、卸売業、小売業、建設業、不動産業など多くの業種で増加したことから、在庫投資額は△9,424億円となった。

在庫率は7.4%で、前年度（8.2%）を0.8ポイント下回った。

(単位：億円、%)

区分	年度		2006(平成18)	2007(平成19)	2008(平成20)	2009(平成21)	2010(平成22)
全産業			60,631	58,655	△ 46,108	△111,871	6,184
製品・商品			32,967	32,919	△ 11,629	△ 47,992	△ 8,763
仕掛品			21,708	11,328	△ 29,317	△ 49,367	4,784
原材料・貯蔵品			5,956	14,408	△ 5,162	△ 14,512	10,163
製造業			18,552	25,211	△ 13,586	△ 50,568	15,608
石油・石炭	△		2,947	4,302	△ 7,031	2,363	2,629
鉄鋼業			2,117	3,444	3,900	△ 7,286	3,200
はん用機械			-	-	-	△ 1,347	376
生産用機械			-	-	-	△ 6,115	△ 464
業務用機械			-	-	-	△ 2,858	592
電気機械			2,497	268	△ 2,994	△ 3,480	2,669
情報通信機械		△	2,011	543	△ 3,240	△ 3,037	2,504
非製造業			42,080	33,444	△ 32,522	△ 61,303	△ 9,424
建設業		△	5,750	2,299	△ 7,987	△ 24,411	△ 11,369
卸売業、小売業			17,008	9,109	△ 12,751	△ 16,035	306
不動産業			15,825	22,080	△ 9,580	△ 14,670	△ 3,894
在庫率			7.2	7.8	7.7	8.2	7.4

- (注) 1. 在庫投資＝調査対象年度中の棚卸資産増減額
 2. 在庫率＝(棚卸資産(期末) / 売上高) × 100
 3. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。
 4. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。
 5. 平成21年度調査から業種分類を改定している(詳細は、2ページの(注)3.をご覧ください)。

4. 資金事情

(1) 資金関連項目の状況（金融業、保険業を除く）（第8表）

受取手形・売掛金は前年度に比べ増加（増加率0.4%）、支払手形・買掛金も増加（同1.0%）となった。

短期借入金は減少（増加率△11.6%）、長期借入金は増加（同0.7%）となった。

現金・預金は増加（増加率4.8%）、流動資産の有価証券も増加（同6.2%）となった。

手元流動性は13.3%で、前年度（12.9%）を0.4ポイント上回った。

第8表 資金関連項目の推移（残高ベース）

(単位：億円、%)

項目	年度		2006(平成18)		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
				増加率		増加率		増加率		増加率		増加率
受取手形・売掛金	2,427,988	4.7	2,455,007	1.1	2,087,231	△15.0	2,052,846	△1.6	2,061,433	0.4		
支払手形・買掛金	1,986,788	4.0	1,980,527	△0.3	1,580,660	△20.2	1,582,745	0.1	1,599,111	1.0		
短期借入金	1,623,641	△9.8	1,623,223	△0.0	1,734,727	6.9	1,855,761	7.0	1,640,782	△11.6		
長期借入金	2,617,533	4.7	2,466,646	△5.8	2,945,324	19.4	2,827,239	△4.0	2,847,190	0.7		
現金・預金	1,471,060	4.8	1,353,663	△8.0	1,431,001	5.7	1,574,506	10.0	1,649,539	4.8		
流動資産の有価証券	156,848	15.8	191,687	22.2	244,084	27.3	205,456	△15.8	218,225	6.2		
手元流動性		10.3		9.8		11.1		12.9		13.3		

- (注) 1. 手元流動性 = (現金・預金及び流動資産の有価証券の期首・期末平均 / 売上高) × 100
 2. 上記計数には金融業、保険業は含まれていない。
 3. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

第9表 資金調達の推移（フローベース）

(2) 資金調達の状況（金融業、保険業を除く）（第9表）

資金調達は44兆2,445億円となり、前年度（44兆3,284億円）を839億円下回った。

(単位: 億円、%)

区分	年度		2007(平成19)		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
資金調達	632,820	100.0	540,729	100.0	375,526	100.0	443,284	100.0	442,445	100.0
外部調達	△140,460	△ 22.2	△33,378	△ 6.2	126,047	33.6	△65,655	△ 14.8	△179,821	△ 40.6
増資	△110,646	△ 17.5	△102,543	△ 19.0	△40,738	△ 10.8	△36,557	△ 8.2	△78,698	△ 17.8
社債	△ 1,331	△ 0.2	730	0.1	6,082	1.6	15,235	3.4	6,982	1.6
借入金	△28,483	△ 4.5	68,435	12.7	160,703	42.8	△44,333	△ 10.0	△108,104	△ 24.4
長期	18,214	2.9	383	0.1	89,923	23.9	60,364	13.6	△72,180	△ 16.3
短期	△46,697	△ 7.4	68,052	12.6	70,780	18.9	△104,696	△ 23.6	△35,924	△ 8.1
内部調達	773,280	122.2	574,108	106.2	249,479	66.4	508,938	114.8	622,266	140.6
内部留保	334,227	52.8	129,599	24.0	△188,006	△ 50.1	103,932	23.4	231,542	52.3
減価償却	439,053	69.4	444,508	82.2	437,485	116.5	405,006	91.4	390,724	88.3

- (注) 1. 増資は資本金、資本準備金及び新株予約権の調査対象年度中の増減額。
 2. 短期借入金には受取手形割引残高を含む。
 3. 内部留保は利益留保、引当金、特別法上の準備金、その他の負債（未払金等）の調査対象年度中の増減額。ただし、企業間信用差額（受取手形＋売掛金＋受取手形割引残高）－（支払手形＋買掛金）の調査対象年度中の増減額の値が負の場合は内部留保を含む。
 利益留保はその他資本剰余金、利益剰余金、その他（土地の再評価差額金、金融商品に係る時価評価差額金等）、自己株式の調査対象年度中の増減額。
 4. 減価償却には特別減価償却を含む。
 5. 上記計数には金融業、保険業は含まれていない。
 6. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

第10表 自己資本比率の推移

5. 自己資本比率（金融業、保険業を除く）（第10表）

自己資本比率は35.6%（前年度34.5%）となった。

業種別にみると、製造業では44.3%（同43.7%）となり、非製造業では32.0%（同30.6%）となった。

(単位: %)

区分	2006(平成18)	2007(平成19)	2008(平成20)	2009(平成21)	2010(平成22)
全産業	32.8	33.5	33.9	34.5	35.6
製造業	43.8	43.8	42.3	43.7	44.3
非製造業	27.7	28.5	30.4	30.6	32.0
資本金別					
10億円以上	39.4	39.3	40.8	42.4	42.8
1億円～10億円	29.0	31.5	32.9	34.9	34.8
1,000万円～1億円	29.0	29.6	29.6	27.8	31.8
1,000万円未満	9.9	11.5	11.4	9.6	5.7

- (注) 1. 自己資本比率＝{(純資産－新株予約権)/総資本}×100
 2. 全産業及び非製造業には金融業、保険業は含まれていない。
 3. 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

6. 経常利益（金融業、保険業を含む）（第11表）

全産業（金融業、保険業を含む）の経常利益は50兆7,745億円で、前年度（38兆365億円）を12兆7,380億円上回り、増加率は33.5%となった。

金融業、保険業の経常利益は7兆469億円で、前年度（5兆9,178億円）を1兆1,291億円上回った。

金融業、保険業を業種別にみると、金融商品取引業、損害保険業、その他の保険業で減益となったものの、銀行業、その他の金商で増益となった。

全産業（金融業、保険業を含む）の資本金階層別の増加率をみると、資本金10億円以上の階層は37.7%、資本金1～10億円の階層は25.5%、資本金1,000万円～1億円の階層は12.8%、資本金1,000万円未満の階層は黒字転化となった。

金融業、保険業の資本金階層別の増加率をみると、資本金10億円以上の階層は15.1%、資本金1～10億円の階層は53.0%、資本金1,000万円～1億円の階層は18.4%、資本金1,000万円未満の階層は赤字縮小となった。

第11表 経常利益の推移

（単位：億円、%）

区分	年度	2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
			増加率		増加率		増加率
全産業 (金融業、保険業を含む)		318,788	-	380,365	19.3	507,745	33.5
金融業、保険業		△ 35,835	-	59,178	*	70,469	19.1
銀行業		△ 26,135	-	35,671	*	46,054	29.1
貸金業等		△ 2,337	-	△ 2,252	*	△ 298	*
金融商品取引業		△ 2,060	-	3,226	*	682	△ 78.9
その他の金商		2,696	-	762	△ 71.7	2,907	281.2
生命保険業		△ 6,610	-	16,901	*	17,542	3.8
損害保険業		△ 2,584	-	3,533	*	2,301	△ 34.9
その他の保険業		1,195	-	1,336	11.7	1,282	△ 4.0
全産業 (金融業、 保険業を含む)	資本金別						
	10億円以上	155,588	-	236,267	51.9	325,282	37.7
	1億円～10億円	55,422	-	58,781	6.1	73,787	25.5
	1,000万円～1億円	102,548	-	94,981	△ 7.4	107,104	12.8
	1,000万円未満	5,231	-	△ 9,663	△284.7	1,572	*
金融業、 保険業	資本金別						
	10億円以上	△ 38,714	-	57,288	*	65,937	15.1
	1億円～10億円	1,152	-	1,414	22.8	2,163	53.0
	1,000万円～1億円	1,795	-	3,646	103.2	4,318	18.4
	1,000万円未満	△ 68	-	△ 3,171	*	△ 1,950	*

（注）1. 増加率は対前年度増加率であるが、一印は調査開始初年度のため、増加率を算出できないものである。

なお、*印は前年度の経常利益が負数のため算出できないものである。

- 全産業（金融業、保険業を含む）については、平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険及び㈱商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。
平成20年度の日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険を含む計数については、14ページの第15表をご覧ください。
- 金融業、保険業については、平成21年度年次別調査から、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険及び㈱商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。
平成20年度の㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険を含む計数については、14ページの第15表をご覧ください。
- 貸金業等とは、貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関をいう。
- 金融商品取引業とは、金融商品取引業（第一種金融商品取引業であって有価証券関連業に限る）をいう。
- その他の金商とは、その他の金融商品取引業、商品先物取引業をいう。

7. 剰余金の配当（金融業、保険業を含む）（第12表）

全産業（金融業、保険業を含む）では、当期純利益は22兆942億円で、前年度（12兆3,197億円）を9兆7,745億円上回った。

金融業、保険業では、当期純利益は3兆4,078億円で、前年度（3兆958億円）を3,120億円上回った。

第12表 剰余金の配当の推移

（単位：億円、％）

区分	2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
全産業（金融業、保険業を含む）						
当期純利益	28,120	100.0	123,197	100.0	220,942	100.0
配当金	138,570	492.8	148,826	120.8	126,177	57.1
内部留保	△ 110,450	△ 392.8	△ 25,629	△ 20.8	94,765	42.9
金融業、保険業						
当期純利益	△ 45,789	100.0	30,958	100.0	34,078	100.0
配当金	16,472	△ 36.0	25,975	83.9	22,603	66.3
内部留保	△ 62,261	136.0	4,982	16.1	11,475	33.7

- （注） 1. 当期純利益＝経常利益＋特別利益－特別損失－法人税、住民税及び事業税－法人税等調整額
 2. 内部留保＝当期純利益－配当金
 3. 全産業（金融業、保険業を含む）については、平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険及び㈱商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。
 4. 金融業、保険業については、平成21年度年次別調査から、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険及び㈱商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。

8. 設備投資（金融業、保険業を含む）（第13表）

全産業（金融業、保険業を含む）の設備投資額は34兆6,523億円で、増加率は△1.5%となった。

金融業、保険業の設備投資額は1兆5,721億円で、増加率は△23.1%となった。

金融業、保険業を業種別にみると、貸金業等、損害保険業、その他の保険業で増加したものの、銀行業、その他の金商、金融商品取引業などで減少した。

全産業（金融業、保険業を含む）の資本金階層別の増加率をみると、資本金10億円以上の階層は5.0%、資本金1～10億円の階層は1.3%、資本金1,000万円～1億円の階層は△12.9%、資本金1,000万円未満の階層は△18.5%となった。

金融業、保険業の資本金階層別の増加率をみると、資本金10億円以上の階層は△32.2%、資本金1～10億円の階層は0.5%、資本金1,000万円～1億円の階層は増加に転化、資本金1,000万円未満の階層は減少幅縮小となった。

第13表 設備投資の推移

区分		2008(平成20)		2009(平成21)		2010(平成22)	
		増加率		増加率		増加率	
全産業 (金融業、保険業を含む)		284,826	-	351,806	23.5	346,523	△ 1.5
		(286,959)	(-)	(350,322)	(22.1)	(348,186)	(△ 0.6)
	金融業、保険業	9,802	-	20,439	108.5	15,721	△ 23.1
		(7,863)	(-)	(19,063)	(142.4)	(15,554)	(△18.4)
	銀行業	10,609	-	15,561	46.7	9,317	△ 40.1
	貸金業等	△ 7,381	-	△ 1,822	*	1,175	*
	金融商品取引業	1,877	-	1,787	△ 4.8	927	△ 48.1
	その他の金商	959	-	1,403	46.4	449	△ 68.0
	生命保険業	2,588	-	2,660	2.8	2,564	△ 3.6
	損害保険業	686	-	665	△ 3.1	1,037	56.1
その他の保険業	464	-	185	△ 60.1	252	36.3	
全産業 (金融業、保険業を含む)	資本金別						
	10億円以上	144,733	-	195,789	35.3	205,660	5.0
	1億円～10億円	35,714	-	42,384	18.7	42,926	1.3
	1,000万円～1億円	76,304	-	95,216	24.8	82,924	△ 12.9
	1,000万円未満	28,074	-	18,416	△ 34.4	15,014	△ 18.5
金融業、保険業	資本金別						
	10億円以上	7,841	-	22,455	186.4	15,232	△ 32.2
	1億円～10億円	531	-	433	△ 18.4	436	0.5
	1,000万円～1億円	665	-	△ 1,544	△332.1	150	*
	1,000万円未満	765	-	△ 905	△218.3	△ 96	*

(注) 1. 設備投資＝調査対象年度中の有形固定資産（土地を除く）増減額+ソフトウェア増減額+減価償却費+特別減価償却費

2. 増加率は対前年度増加率であるが、一印は調査開始初年度のため、増加率を算出できないものである。

なお、*印は前年度の設備投資が負数のため算出できないものである。

3. () 書きは、ソフトウェア投資額を除いたものである。

4. 全産業（金融業、保険業を含む）については、平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険及び㈱商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。平成20年度の日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険を含む計数については、14ページの第15表をご覧ください。

5. 金融業、保険業については、平成21年度年次別調査から、㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険及び㈱商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。平成20年度の㈱ゆうちょ銀行、㈱かんぽ生命保険を含む計数については、14ページの第15表をご覧ください。

6. 貸金業等とは、貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関をいう。

7. 金融商品取引業とは、金融商品取引業（第一種金融商品取引業であって有価証券関連業に限る）をいう。

8. その他の金商とは、その他の金融商品取引業、商品先物取引業をいう。

第14表 自己資本比率の推移

(単位：%)

区分		年度		
		2008(平成20)	2009(平成21)	2010(平成22)
全産業 (金融業、保険業を含む)		18.1	17.4	17.7
金融業、保険業		4.5	5.4	5.0
全産業 (金融業、 保険業を含む)	資本金別			
	10億円以上	15.4	15.1	15.1
	1億円～10億円	27.1	28.9	29.1
	1,000万円～1億円	28.0	27.0	30.1
	1,000万円未満	10.1	6.6	4.8
金融業、 保険業	資本金別			
	10億円以上	4.3	4.9	4.8
	1億円～10億円	8.3	8.9	9.2
	1,000万円～1億円	8.4	20.8	9.6
	1,000万円未満	2.1	0.2	1.8

9. 自己資本比率（金融業、保険業を含む）（第14表）

全産業（金融業、保険業を含む）では、自己資本比率は17.7%（前年度17.4%）となった。

金融業、保険業では、自己資本比率は5.0%（同5.4%）となった。

(注) 1. 自己資本比率 = { (純資産 - 新株予約権) / 総資本 } × 100

2. 全産業（金融業、保険業を含む）については、平成21年度年次別調査から、日本郵政(株)、郵便事業(株)、郵便局(株)、(株)ゆうちょ銀行、(株)かんぽ生命保険及び(株)商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。

3. 金融業、保険業については、平成21年度年次別調査から、(株)ゆうちょ銀行、(株)かんぽ生命保険及び(株)商工組合中央金庫を含んだ計数となっている。

第15表 郵政5社を含む売上高・経常利益・設備投資

【売上高】

(単位：億円)

区分	年度	2008(平成20)	2009(平成21) (再掲)	2010(平成22) (再掲)
全産業（金融業、保険業を除く）		15,117,558	13,680,196	13,857,426
非製造業（金融業、保険業を除く）		10,667,032	9,868,041	9,824,290

【経常利益】

(単位：億円)

区分	年度	2008(平成20)	2009(平成21) (再掲)	2010(平成22) (再掲)
全産業（金融業、保険業を含む）		327,312	380,365	507,745
全産業（金融業、保険業を除く）		357,152	321,188	437,275
非製造業（金融業、保険業を除く）		255,308	230,086	279,192
金融業、保険業		△ 29,840	59,178	70,469

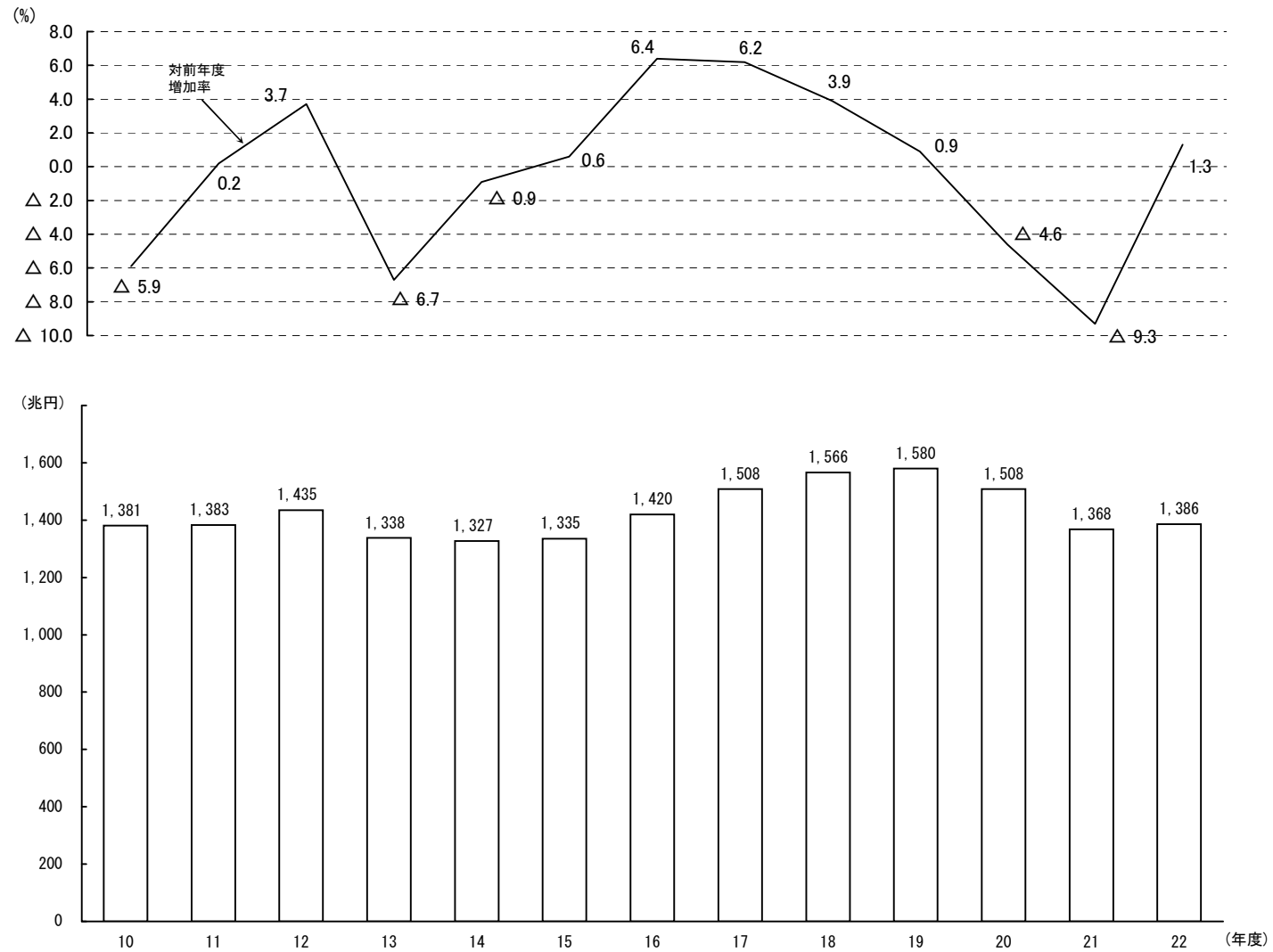
【設備投資】

(単位：億円)

区分	年度	2008(平成20)	2009(平成21) (再掲)	2010(平成22) (再掲)
全産業（金融業、保険業を含む）		286,580	351,806	346,523
		(288,301)	(350,322)	(348,186)
全産業（金融業、保険業を除く）		275,575	331,366	330,802
		(279,586)	(331,259)	(332,633)
非製造業（金融業、保険業を除く）		115,526	223,763	218,134
		(119,802)	(222,332)	(219,913)
金融業、保険業		11,005	20,439	15,721
		(8,715)	(19,063)	(15,554)

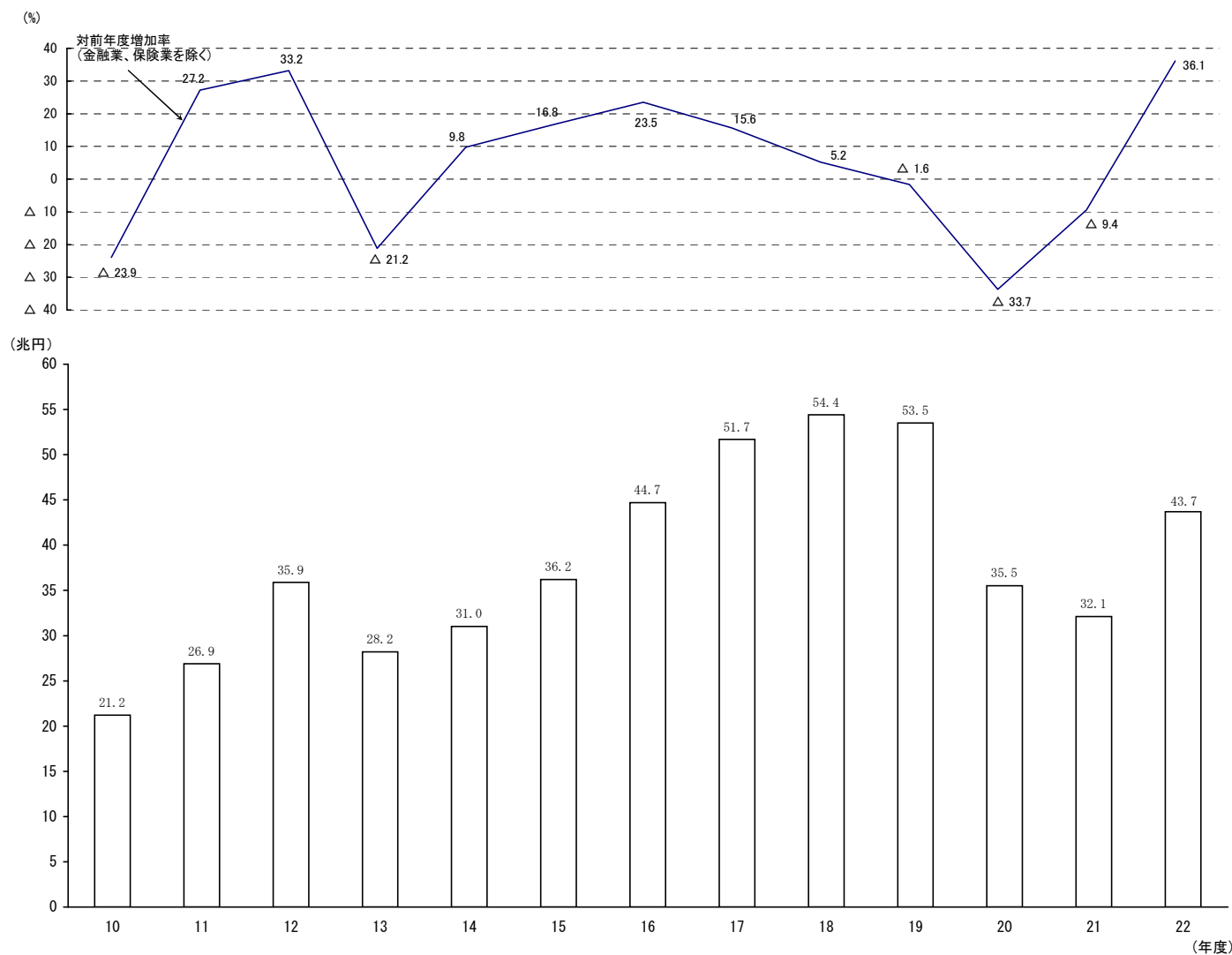
(注)1. 設備投資=調査対象年度中の有形固定資産（土地を除く）増減額+ソフトウェア増減額+減価償却費+特別減価償却費
2. ()は、ソフトウェア増減額を除いたものである。

第1図 売上高（金融業、保険業を除く）



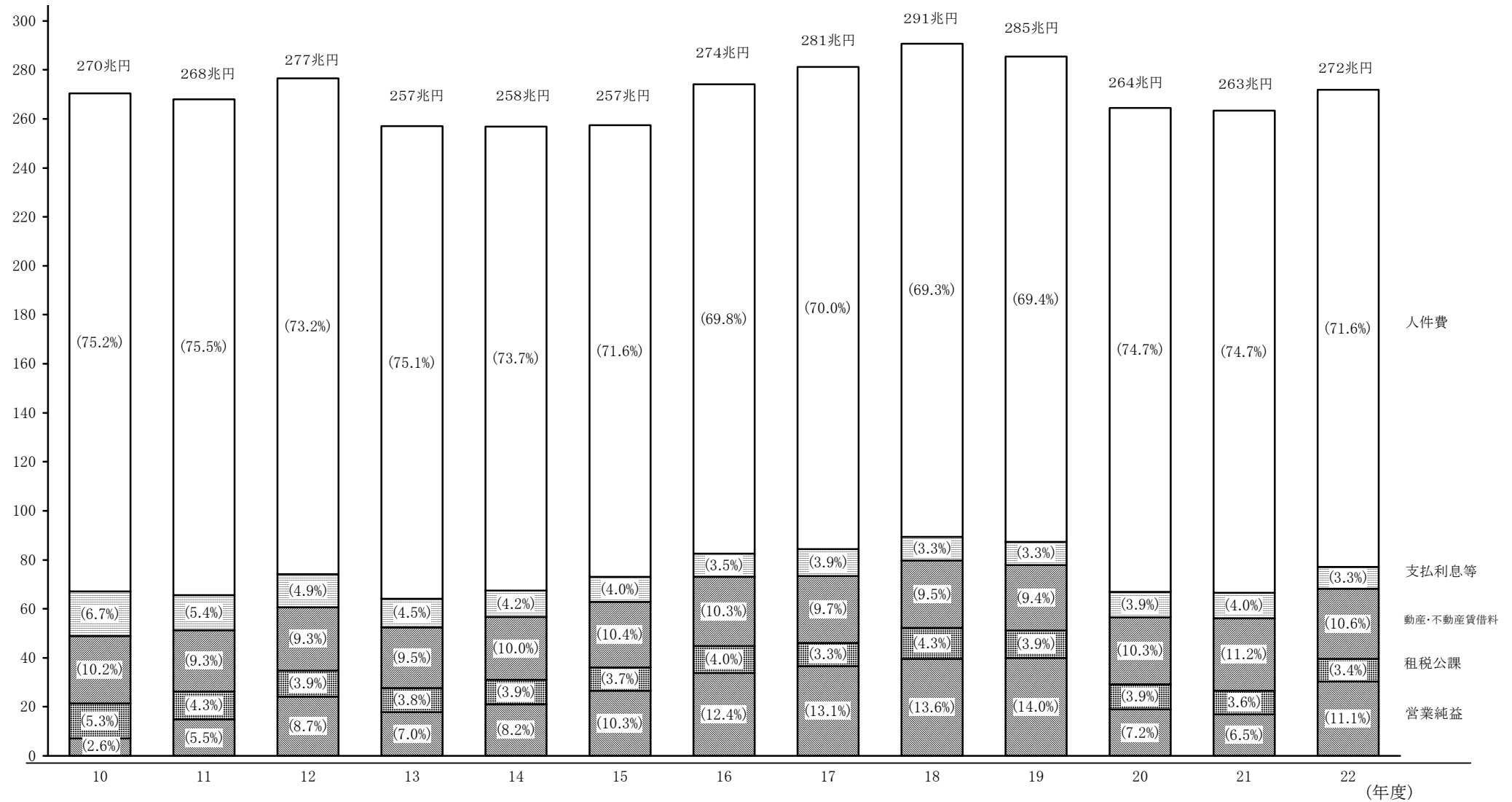
(注) 平成21年度年次別調査から、日本郵政㈱、郵便事業㈱、郵便局㈱を含んだ計数となっている。

第 2 図 経 常 利 益 (金融業、保険業を除く)



第 3 図 付 加 価 値 の 構 成 (金融業、保険業を除く)

(兆円)



(注) 平成 2 1 年度年次別調査から、日本郵政(株)、郵便事業(株)、郵便局(株)を含んだ計数となっている。